

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

西野有美・教育認知心理学コース・修士課程1年

国際学会：The society for personality and social psychology annual convention 2026

参加地・期間：アメリカ合衆国・イリノイ州シカゴ・2026年2月26日～2月28日

発表題目：The Interaction Effect of Independent and Interdependent Self-Construals on Life Satisfaction

成果の概要

私は、アメリカ合衆国のシカゴで開催された The society for personality and social psychology annual convention 2026に参加しました。プレカンファレンスで、相互独立性・相互依存性の2つの文化的自己観がどのように人生満足度と関連しているのかについての研究を発表しました。本国際学会への参加は、私にとって初めての国際学会発表であり、研究者として非常に貴重な経験となりました。今回のポスター発表では、海外を含む複数の研究者が発表を聞きに来てくださり、合計で5名ほどの研究者と研究内容について議論する機会を得ることができました。発表では、自身の研究の背景や目的、研究方法、結果についてできるだけ分かりやすく説明することを意識し、研究の意義や今後の展望についても熱意を持って伝えるよう努めました。その結果、研究方法に関する詳細な質問や、今後どのような研究展開を考えているのかといった発展的な質問をいただくことができました。これらの質問に対して自分なりの考えを丁寧に説明することで、自身の研究内容を改めて整理するとともに、研究の意義や今後の方向性についてより深く考える機会となりました。

さらに、自身の発表だけでなく、他の研究者のポスター発表にも積極的に参加しました。特に、自身の研究テーマと関連の深い研究や、将来的に取り組みたいと考えている分野に近い研究を中心に見て回り、研究者と直接意見交換を行いました。その中で、自分が今後取り組みたいと考えている研究テーマと非常に近い研究を行っている研究者と出会うことができ、研究内容や方法について詳しく話を伺うことができました。この交流を通して、自身の研究へのモチベーションを高めるだけでなく、自身の研究を今後どのように発展させていくかについて多くの示唆を得ることができました。

また、学会の各セッションにも参加し、well-beingに関する多様な研究に触れることができました。特に、parental well-beingやemotional well-beingに関するセッションでは、これまで知らなかった研究領域や研究視点について学ぶことができ、大変有意義でした。研究方法や使用されている心理尺度についても多くの学びがあり、今後の研究において取り入れてみたいと思える方法に出会うことができた点は大きな成果だと考えています。

会場では、多くの研究者が活発に議論を交わしており、ポスター発表の場面だけでなく、コーヒープレイクといった休憩時間やreceptionなどでも研究に関する意見交換が行われている様子が印象的でした。このような国際的な研究交流の場に実際に参加することで、今後も色々な分野の方と知識を共有し、ネットワークを構築させていきたいと考えています。

本支援を受けて国際学会に参加できたことにより、自身の研究を国際的な場で発表する経験を得るとともに、多くの研究者との交流や最新の研究動向に触れることができました。しかし、色々な研究者とお話をしている中で、もう少し的確に言語化して伝えられればもっと良かったのになあといった英語でのコミュニケーションならではの悔しい思いもしました。今後は引き続き研究の進展のみならず、英語のコミュニケーションの向上も目指していきたいと考えております。今回のご支援のおかげで、国際学会に参加でき、このような貴重な経験を得られたことに、深く感謝申し上げます。今回得られた知見や研究者とのつながりを今後の研究活動に活かし、より質の高い研究成果を発信できるよう努力していきたいと考えています。